

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

立山通学合宿 ～つながろう仲間！つくろう生活リズム！～

1 ねらい

- ・立山町立小学校に在籍する5・6年生が、将来同じ中学校で学校生活を送ることを見据え、小学校の枠を越えた仲間づくりの場を提供することで、望ましい人間関係を育む。
- ・本施設から各学校へ通学し、寝食を共にする集団生活で、基本的な生活習慣を身に付けるとともに自主性や自立心を育てる。

2 期日

令和7年11月3日（月・祝）～11月8日（土） 【5泊6日】

3 対象

立山町立小学校に在籍する5・6年生

4 募集人数 / 応募人数 / 参加人数

50名 / 47名 / 43名（4名参加決定後にキャンセル）

5 講師・スタッフ

立山町に勤務する外国語指導助手（ALT）5名  
立山小学校に勤務する地域おこし協力隊1名  
法人ボランティア6名

6 後援・協力

立山町教育委員会  
北日本新聞社



7 日程

日付	曜日	午前	午後	夜
11月3日	月祝		開講式 アイスブレイク	生活オリエンテーション
4日	火	森の葉っぱアート ※休業日の学校のみ	火起こし・焚火 ※休業日の学校のみ	交流・ゆとり
5日	水	学校 ※教育研究会のため給食後放課	館内オリエンテーリング	夕食（豚汁）づくり 焚火・スモア
6日	木	学校	学校	交流・ゆとり
7日	金	学校	学校	キャンプファイヤー
8日	土	大清掃 振り返り・閉講式		

8 参加者からの事後アンケート

- ・今までは登校時間のギリギリまで寝ていた私が、早く起きなければならないことに心配していましたが、毎日繰り返すことで少しずつ当たり前にすることができました。また、コミュニケーション能力も上がりました。人見知りな私でも、この1週間でみんなと協力することで、自分の意見をしっかりとと言えるようになりました。

- ・たくさん増やせた友達と、中学校に行ってもまた会いたいと思ったし、今回身に付けたコミュニケーション能力を使って、中学校でも新しい友達をつくりたいと思いました。
- ・班活動では、みんなでやればやり遂げられたことで協力の大切さを学びました。洗濯は1回だけしかしなかったけど大変だったから、それを毎日やっているお母さんはすごいと思いました。この通学合宿で心が成長したと思います。
- ・最初は同じ班の人でもそんなにしゃべれなかったけど、活動することでしゃべれるようになったし、違う班の人もバドミントンやカードゲームをしてとても仲良くなれて、中学校でも大丈夫だなと思いました。今後も通学合宿で学んだことを生かして、生活リズムをよくしていきたいです。

## 9 成果

- ・募集チラシや募集フォームに本事業の趣旨やトラブルの未然防止について掲載し、参加者及び保護者への浸透を図った。また、開講式でも合宿のねらいを親子で確認する時間を設け、事業の意義を共通理解したうえで事業がスタートできた。
- ・前もってしおりを送付し、通学合宿のめあてを覚えておくように促したことで、それぞれ目的意識をもって合宿をスタートさせることができた。
- ・プログラムを詰め込みすぎず、子供たち同士が自由に交流する時間や、学習や洗濯など自分の必要なことができるゆとりの時間を設定した。友達づくりと自立を促す点で効果的であった。
- ・振替休業日がある学校の子供とない学校の子供が混ざるように班編成し、振替休業日に体験したことを伝えたり、教えたりする場面を意図的につくった。これにより、振替休業日の体験を活用することができ、子供同士の交流が活性化した。
- ・昨年度までのイングリッシュキャンプでできた立山町のALTとのつながりから、キャンプファイヤーにALTを招き、プログラムを盛り上げてもらった。また、ゆとりの時間では、自主的に英語の交流ゲームを行ってくれたり、振り返りにも参加してくれたりして、子供たちは大変喜んでいました。

## 10 今後の課題

- ・原則男女それぞれのスタッフが宿泊勤務することで、夜から朝の対応を行った。出張等の関係で女性スタッフが不足する現状もあり、ボランティア頼みになってしまう場合がある。長期休業中ではない長期キャンプであるため、ボランティアの確保にも例年苦労している。
- ・昨年度に比べ、参加費を1人あたり1180円増額した。今後の物価の変動によっては、さらに参加費の増額を検討する必要がある。

